第6学年　社会科学習指導案

ろ組　男子18名　女子19名　計37名
指　導　者　　上江洲　洋　志

1　小単元　　武士の世の始まり

2　小単元について

(1)　小単元の位置とねらい

子どもたちは，これまでに藤原道長をはじめとする貴族の華やかな生活や紫式部などの活躍について調べる学習を通して，天皇を中心とした政治が進められたことや，京都に都が置かれたころにこれまでの大陸文化とは趣の異なった，独自の日本風の文化が起こったことについてとらえてきている。このような学習をしてきている子どもたちは，貴族による政治がすすめられた世の中が，その後どのように移り変わっていくのかということについて追究したいという意欲が高まってきている。

そこで，本小単元では，武士の登場と源平の戦い，平清盛による政治，源頼朝の行った政治などを追究する活動を通して，武士の勢力が広がったことや，平清盛や源頼朝の台頭により，武士による政治が始まったことをとらえさせるものである。また，写真や絵図，年表や文書などを活用し，武士による政治が始まった時代の特色を，二人の武士の政治理念の違いを比較しながら考える力や，考えたことを説明する力，自他の考えの妥当性を吟味し合う力を高めさせていくようにする。

このような学習は，武士による政治が継承された室町時代を発祥とし，現代の生活にも受け継がれ，親しまれている室町文化を追究する学習へと発展してくものである。

(2)　指導の基本的な立場

平安時代の中ごろから，地方の豪族は，自らの領地を守るために武芸に励み，武士団を形成していった。そんな中で，平清盛を中心とする平氏が，貴族の藤原氏に代わって初の武士政権を築いた。清盛は，宋との貿易を推し進めた。また，その一方で娘を天皇に嫁がせたり，一族で政権の重要な位置を占めたりするなど，貴族的な政治を抜け出すことができず，貴族や他の武士の間で不満が広がっていった。このような平氏を滅ぼし，権力を強めたのが，源頼朝である。頼朝は，征夷大将軍に任じられると鎌倉に幕府を開き，「御恩」と「奉公」という主従関係により武士を統率する仕組みを確立した。しかし，頼朝の死後に起こった元寇の際に一所懸命に戦った御家人たちに十分な恩賞を与えられず，幕府と御家人の信頼関係が揺らいだことから，幕府は衰退していった。

そこで，ここでは，武士による政治が行われるようになったことをよりよく理解させるために，武士の起こり，平清盛による政治，源頼朝の政治，元寇とその影響を取り上げていく。その際，これまでの貴族の政治と武士による新しい政治の違いをとらえさせるために，平清盛と源頼朝が目指した政治の仕組みを比較させ，世の中をよりよく治めていく政治の在り方として，どちらの政治の進め方が有効であったかを価値判断させるとともに，その理由を話し合わせることで，武士による政治の始まりに関心をもつとともに，この時代に対する見方や考え方を広げることができるようにする。

そのために，まず，年表や源平の戦いの勢力変遷図を基に，貴族社会の崩壊から平清盛の台頭，源頼朝の台頭と鎌倉幕府の成立，衰退といったこの時代の流れを追究させる学習を基に，「武士が力を高め，その中でも平氏と源氏が政権を握ったのには，どんな理由があるのだろうか。」という問題意識をもたせ，武士の起こりや平清盛や源頼朝といった武士による政治の始まりについて追究したいという意欲を高めさせたい。

次に，一人一人の予想を基に，自分なりの見方や考え方を生かした追究計画を立てさせ，年表や絵図，地図等の資料を基に，「武士の起こり」「平清盛による政治」「源頼朝による政治」の追究の柱から，自分なりに気付いたことをグループや全体で話し合わせる。そして，支配体制，政策といった視点から二人を比較させながら追究させ，それぞれの視点における類似点や相違点を整理させていく。

さらに，追究したことを基に，「世の中の安定と発展のために，平清盛と源頼朝のどちらに政治

を任せるべきか。」価値判断させ，その理由を話し合う活動を設定することで，獲得した知識や 概念を基にした社会的な価値判断ができるようにしていく。

このような学習を通して，子どもたちは武士の起こりや武士による政治の始まりについて自ら追究する楽しさや喜びを味わいながら（計画性の向上），武士による政治が始まった時代の様子に対する見方や考え方を共に深め広げたりすることになるとともに（協調性の向上），よりよい社会の形成についての見方や考え方を深めていくことにつながっていく（責任感の高揚，自己肯定感の醸成）。

(3) 子どもの実態（調査人数３７名，質問紙法，重複回答，主な項のみ記述）

1 武士による政治が始まった時代への興味関心
人物(12) 生活(12) 戦い，出来事(7)
2 平清盛について知っていること
源氏と争った (12) 頼朝，義経の助命(5)
厳島神社(4) 太政大臣(6) 高熱を出した(4)
貿易をしてもうけた(2)天皇家との政略結婚(1)
3 源頼朝について知っていること
平氏と争い，滅ぼした(9) 鎌倉幕府を開いた(7)
将軍となった(4) 義経を攻め殺した (5)
武士を大切にする仕組みを作った(2)
4 貴族による政治と武士による政治の違い
戦いの有無 (7) 血縁による政治と力による政治 (3)
どちらも不平等 (2) どちらも天皇中心でない (2)
5 鎌倉時代の武士の生活の様子
鍛えていた(9) 質素な暮らし(5) 農作業(4)
6 資料活用力
①年表・・・出来事 (25)，時代 (20)，変遷 (6)
②絵図（大仏作りの想像図）
場面 (19) 服装や道具 (8) 人物の関係 (5)
③地図（古墳の分布）
広がり (9)，数 (7) 都市との関係 (6)
7 まとめ方
新聞 (24) 年表 (3) ポスター (2) 地図 (2)

この学級の子どもたちの，武士による政治が始まった時代についての見方や考え方は次のとおりである。

武士による政治が始まった時代については，人物や生活の様子に関心をもつ子どもが多く，世の中の出来事や政治の仕組みに関心をもっている子どももいる。これは，主にこれまでの読書経験からであると考える。次に，武士の世の中の始まりにかかわる平清盛，源頼朝については，源平の争いがあったことや，最終的に源頼朝が征夷大将軍となり，鎌倉に幕府を開いたことを知っている子どもはいるものの，その数は限られている。また，平清盛の政治や業績について知っている子どもは少ない。これは，テレビや書籍などの視聴経験に個人差があることや，二人の人物に関する資料の情報量に違いがあることが原因であると考える。次に，貴族による政治と武士による政治の違いや，鎌倉時代の武士の生活の様子については，知識をもっている子ども自体が少ない。これは，歴史的事象を，人物の活躍や業績からとらえる視点をもつ子どもが多く，当時の人々のくらしに十分目が向いていないためであると考える。資料活用力について，年表や絵図，分布図にかかれていることを読み取ることができる子どもは多い。また，読み取った歴史的事象同士を関係付けて考えることができる子どももいる。これは，これまでの学習経験から資料の見方が高まっているからであると考える。

(4) 指導上の留意点

以上のことを踏まえ，指導に当たっては次のようなことに留意したい。

武士による政治が始まった時代の様子をよりよくとらえさせるために，「武士の起こり」，「平氏による政治」，「源氏による政治」という追究の柱を設定する。その際，平清盛の目指した政治の仕組みと源頼朝の目指した政治の仕組みを比較しながら，よりよい国づくりのためにどちらの政治の進め方がよいのか価値判断させたり，判断したことを吟味し合う活動を位置付けたりしていきたい。

ア まず，保元の乱や平治の乱で武士が政治的な解決を図った事実や，源平が争っていた頃の年表や勢力図を基に，政治の中心が貴族から武士へ移行していった事実，政治の権力が平氏から源氏へと移り，さらに源氏が開いた鎌倉幕府もやがて衰退していった事実をとらえさせる。これらの事実から，「武士による政治が始まったことや，源氏による政治と平氏による政治が行われたのには，どんな理由があるのだろうか。」という問題意識をもたせ，武士の世の中の始まりを追究していきたいという意欲を高めさせたい。そして，追究への見通しをもたせるために，「世の中の安定と発展のために，平清盛と源頼朝のどちらに政治を任せるべきか。」という論題を設定し，価値判断させるとともに，判断の理由を話し合わせることで，追究すべき内容を明らかにさせていく（未来予測，参加）。

イ 武士による政治の始まった時代の様子を明らかにするために，まず，保元の乱や平治の乱の場面絵，年表を基に，貴族同士の争いに武士が加わっていった経緯をとらえさせるとともに，その

中で平氏と源氏が台頭していった事実をとらえさせる。次に，年表や絵巻物の場面絵，文書資料などを基に平清盛の政治の特色と，源頼朝の政治の特色を明らかにさせていく。その際，二人の政治の中心地，政権組織の特徴，政策といった視点で比較させる（**多面，総合**）。

ウ　追究したことを基に，単元の終末において，再度価値判断し，判断した理由を吟味し合う討論的活動を設定する（**コミュニケーション，協力**）。その際，追究に際して用いた資料や，まとめたことを基に，根拠を明確にした判断となっているかを吟味させたり，根拠と主張の整合性を吟味させたりする（**批判的に考える力**）。さらに，自己の判断とその理由の深まりを実感させるために（**尊重**），討論的活動を振り返る場を設定し，事前と事後の自己の考えを比較させたい。

3　目　　標

(1)　武士の政治が始まった時代の様子に関心をもち，これまでの学習における学びを生かしながら主体的に調べたり，調べたことを話し合ったりまとめたりすることができる。

(2)　武士の政治が始まった時代の様子について，平清盛の政治，源頼朝の政治を調べ，二人の政治について価値判断したり判断の理由を説明したり吟味し合ったりすることができる。

(3)　武士の政治が始まった時代の様子について，年表や絵図，文書などの資料を活用して必要な情報を集めるとともに，調べて明確になったことを歴史新聞などにまとめることができる。

(4)　地方の有力な農民や豪族の中から，武士となった者が現れたことをとらえるとともに，平清盛，源頼朝といった武士が権力を強め，武士による政治が始まったことをとらえることができる。

4　指導計画（全８時間）

学習過程	主な学習活動	子どもの思考の流れ	教師の具体的な働きかけ
つかむ・立てる ①	1　源平の戦いの様子や勢力の変遷を調べ，武士が力をつけてきた様子を基に論題をとらえ，初めの価値判断をする。 世の中の安定と発展のために，平清盛と源頼朝のどちらに政治を任せるべきか。 2　判断した理由の話し合いを基に，調べる内容や方法について計画を立てる。 ［調べる内容：追究の柱］ ○　武士の起こり　○　平清盛の政治 ○　源頼朝の政治	貴族の世の中と様子が違うぞ。 初めは平氏が実権を握ったんだね 武士による政治が始まったんだね。武士の平清盛，源頼朝がそれぞれ権力を強めたのはなぜかな。その政治を比べてみて，優れているのはどちらなのかな。 平清盛／源頼朝がいいと思う。でも，その根拠がはっきりしないな。 どんなことを調べていけばいいかな。	◎　絵図（保元，平治の乱，源平合戦勢力図） ◎　年表（平安時代末期～鎌倉時代） ○　貴族に変わり武士が政治の中心となってきたことをとらえさせるために，絵図から貴族の世の中との違いについて気付いたことを話し合わせる。 ○　論題に対する考えをもたせるために（**参加**），平氏と源氏の台頭や勢力の変遷に着目させ，どちらも貴族に代わり，武士による政治を進めようとした人物であることをとらえさせる。 ○　追究する内容を明らかにさせるために（**未来予測**），主張と根拠の整合性に着目させ，判断した内容を話し合わせる。
調べる ⑤	3　武士の起こりと源平の争いについて調べ，話し合う。 4　平清盛や源頼朝の目指した政治について調べ，話し合う。 【平清盛】 ・近親者の登用 ・知行国制の利用 ・六波羅／福原 ・自ら推進 主従関係 地方組織 政治拠点 貿易 【源頼朝】 ・御恩と奉公 ・守護・地頭 ・鎌倉 ・民間で継続 ↓ 武士の世の中の始まり 6　元寇が鎌倉幕府や御家人に与えた影響について調べ，話し合う。 ・必死の戦い ・北条時宗の活躍 ・元軍撤退（暴風） → ・恩賞の問題 ・御家人の不満 ・幕府不信	二人の政治の進め方を，同じ視点で比べていこう。 地方で力を蓄えた人の中から武士が生まれたのだな。また，貴族や朝廷の権力争いで力をのばしていったんだな。 源頼朝は，都から離れた場所に幕府を開き，主従関係や地方とのつながりを大切にする新しい政治の仕組みを整えたんだな。 元との戦いでは，御家人は一所懸命に戦ったけど，「御恩」と「奉公」の主従関係が崩れるきっかけともなったんだな。 平清盛は武士として初めて政治を行い，朝廷との関係を大切にして政治を行ったり，貿易に力を入れたりしたんだな どちらに政治を任せるのがいいかな。調べたことを整理して考えてみよう。	◎　地図（日本全図，鎌倉市鳥瞰図） ◎　図（鎌倉幕府の組織） ○　頼朝が，新しい政治の仕組みを整えようとしたことをとらえさせるために（**多面，総合**），鎌倉幕府の位置や土地の特徴に着目させ，そこに幕府を開いた理由を話し合わせる。また，鎌倉や地方の役職と役割に着目させ，地方を統制する仕組みまで整備していたことに気付かせる。 ◎　絵図（蒙古襲来絵詞），文書（徳政令） ○　元寇における御家人の働きや，元寇が幕府に与えた影響をとらえさせるために，戦いの様子や恩賞をもらいに行く様子に着目させ，命がけで国を守ろうとする気持ちや恩賞が与えられず不満に思う気持ちを話し合わせる。
まとめる・広げる ②	7　これまでの学習をまとめ，調べたことを基に価値判断する。 朝廷や貴族の権力争いの中で武士が力を伸ばし，平清盛や，源頼朝が政治の中心となり，武士の世の中が始まった。 8　価値判断したことを話し合い，判断の妥当性を吟味する。（本時） 【平清盛】 ○　朝廷とのつながりを大切に。 ○　貿易による経済の活性化 △　組織作りが平等でない。 【源頼朝】 ○　組織作りが平等だ。 ○　地方統治もできている。 △　経済的政策が十分でない。 武士の世の始まり ↓ 時代の転換点	朝廷の組織を生かそうとした点で清盛のほうがふさわしい。 守護や地頭などの組織作りから，頼朝のほうがふさわしい。 日宋貿易によって，経済が活発になった点から，清盛がふさわしい。 御恩と奉公の関係は，御家人にとって公平感のあるやり方だ。 公平感のある政治の進め方も大切だな。 体制だけでなく，経済を考えることも大切だな。 どちらも貴族にかわる，新しい武士の世の中をつくろうとした点は同じだ。国を治めていくためには，様々なことを考える必要があるな。	◎　地図（平氏の勢力，拠点等），図（平清盛の政権） ○　清盛の政治の特徴をとらえさせるために（**多面，総合**），藤原道長の政治と比較させ，類似点を話し合わせる。 ◎　絵図（清盛が整備した港湾等） 日宋貿易が与えた影響をとらえさせるために，整備した土地とその土地の発展の様子とを関係付けて考えさせる。 ○　主張と根拠の整合性を吟味させるために（**批判，コミュニケーション**），追究において使用した資料を用いて討論させる。 ○　価値観の広がりを促すために（**多面，総合，批判**），子どもの価値観を揺さぶる資料を提示する。 ○　武士の世の始まりに対する見方や考え方の深まりを実感させるために（**尊重**），討論を振り返る場を設定し両者に対する考えの変化や多様化に気付かせる。

5　本　　時（8／8）

(1)　目　　標

「世の中の安定と発展のために，平清盛と源頼朝のどちらに政治を任せるべきか」について価値判断したことを主張し合う活動を通して，自他の判断を比較し，主張とその根拠の整合性を吟味するとともに，吟味したことを基に自己の判断をより社会的な判断に再構成することができる。

(2)　本時の展開にあたって

本時の展開にあたっては，「平清盛」と「源頼朝」の二人が目指した政治について価値判断したことを話し合わせる際に，判断の妥当性を吟味させるために（**批判**），自他の考えとその根拠の整合性を検討させる。また，より社会的な価値判断をさせるために（**批判**，**多面**，**総合**），子どもの価値観を揺さぶる資料を，討論の進行に合わせて教師が提示する。

(3)　実　際

学習過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
論題の確認 討論計画 価値判断の吟味 まとめ	1　論題を確認する。 世の中の安定と発展のために，「平清盛」と，「源頼朝」のどちらに政治を任せるべきか。 2　自分の主張や根拠，用いる資料を確認し，討論の進め方を知る。 【討論の進め方】 ・　主張①（平清盛派→源頼朝派） ・　質問①（源頼朝派→平清盛派） ・　質問②（平清盛派→源頼朝派） ・　主張②（平清盛派→源頼朝派） ・　最終判断，感想交流 3　調べたことを基に討論する。 【どちらに政権を担当させるべきか】 平清盛：○朝廷の仕組みを上手に生かしている。○貿易による経済活性や海上交通の整備に尽力した。△藤原氏の政治と同じだ。△政治の仕組みが不平等だ。 源頼朝：○御恩と奉公の仕組みは平等だ。○地方統治が充実している。○全く新しい組織を作り出した。△御恩と奉公には限界があ△経済面まで考えていない。 武士の世への願い 武士による政治の始まり 時代の転換点 4　討論を基に，二人に対する見方や考え方を再構成する。 平清盛：・　これまでにある制度や仕組みを活用して武士による政治を行おうとした。 源頼朝：・　これまでにある制度や仕組みとは全く違うものを作り，武士による政治を行おうとした。 5　本時の学習をまとめ，感想を交流する。 ・　どちらも，貴族にかわる新しい政治の仕組みをつくろうとし，そのことによって武士の世の中が始まった。 ・　歴史の流れの中で見ると，この二人が生きた時代は，時代の大きな転換点だ。	(分) 7 30 8	㊟　ワークシート（事前の価値判断） ○　討論への見通しをもたせるために（**未来予測**，**コミュニケーション**），ワークシートの記述内容や根拠となる資料を確認させるとともに，主張の順序や補助発言を話し合わせる。 ㊟　絵図等（追究の段階で使用したものや子どもが調べ，まとめたもの） ○　価値判断の妥当性を吟味させるために（**批判**）根拠となる資料を示しながら主張させ，根拠との整合性を検討させる。 ㊟　表（平清盛と源頼朝の政治の比較） ○　判断の理由付けに広がりをもたせ，社会的な価値判断ができるようにするために（**多面**，**総合**），追究によって明らかになった二人の政策等を整理した表を提示し，視点ごとに比較させて判断の理由を考えさせる。 ㊟　自作資料（室町幕府や江戸幕府の政治組織→平清盛派へ，日宋貿易の価値→源頼朝派へ） ○　価値観の広がりを促し，考えを再構成させるために（**批判**），子どもの価値観を揺さぶる資料を教師が提示し，提示した内容と自己の判断の内容とを比較，検討させる。 ㊟　年表（各時代の支配階級が分かるもの） ○　平清盛や源頼朝の業績が時代の転換点の一つであることをとらえさせるために政治の中心に着目させ，以後武士の世の中が７００年も続くという事実に気付かせる。 ㊟　ワークシート（事前の価値判断理由） ○　討論によって社会的事象に対する見方や考え方が深まったことを実感させるために（**尊重**），事前と本時の平清盛や源頼朝に対する自己の見方や考え方を比較させる。また，自己の見方や考え方の深まりや広がりに影響を与えた友だちの意見を踏まえて感想を書かせ，交流させる。